

1 本年度の学校教育目標及び学校経営の基本方針

- 校訓「自主・協和・創造」
- 学校教育目標「自主・協和・創造の精神に富んだ心身ともに健康な生徒の育成」
- 探求キーワード「どんな仕事に就いて、どんな大人に生りたいか？」
 - 【めざす学校像】地域づくりの要となる学校
 - ・生徒の自立の上に秩序が保たれている学校
 - ・確かな学びが保障される学校
 - ・活気にあふれ、美しい学校
 - ・地域に開かれた学校
 - 【めざす生徒像】生涯、支えあい協力しあえる地元の仲間となれる生徒
(生涯の絆「いちい」上条、仲間づくり)
 - ・健全な心身を持ち、命を大切にする生徒
 - ・心豊かで、思いやりのある生徒
 - ・基礎学力の身についた生徒
 - ・自らの生き方を探求する生徒
 - ・基本的生活習慣が身に付いている生徒
 - 【めざす教師像】親身に接し、何事にも誠実に取り組む教師
 - ・基礎基本の定着・確かな学力の向上を目指し、自己研鑽に励む教師
 - ・研修に励み、学び合い、「切磋琢磨」する教師
 - ・生徒一人一人の尊厳を尊重しながらも、厳格な姿勢で指導できる教師
 - ・教師としての使命感・専門職意識を持ち、生徒・保護者の信頼に応えられる教師
 - ・組織の一員としての自覚を持ち、行動がとれる教師
- 学校経営の基本方針
 - ・確かな学力の育成：基礎基本の定着を図り、「考える力」を身につけた生徒の育成（知）
 - ・豊かな心の育成：協和の心（思いやり・感謝・素直）を持ち、善悪の判断ができる生徒の育成（徳）
 - ・健康な心身の育成：基本的生活習慣を確立し、心身共に健康で自他の命を大切にする生徒の育成（体）
 - ・人を豊かに育むための教育環境の構築：施設設備の安全に生活するための管理と人的環境整備の継続的な実施（教室環境）

2 学校評価の項目設定について

学校評価の自己評価項目は、校長の示す学校教育目標および学校経営の基本方針・指導重点をもとに、昨年度と同様に評価項目を8つに分類し、具体評価項目を20問設定した。

今年度も感染症対策を十分行う中で、授業や学校行事を工夫して実施してきた。学校評価については、12月1回のみの実施とした。

教職員は、これらの視点で教育活動が推進されてきたかを振り返り、生徒と保護者のアンケート調査結果とともに内容を分析し、よりよい改善策を見出して次年度に生かせるようにする。

【評価方法の概要】

「学校評価」

- 実施期日：令和4年12月
- 実施対象：教職員27名、参考調査として、全校生徒及び保護者
- 調査内容：教職員自己評価（7項目、20問）
生徒アンケート（13問）、保護者アンケート（14問）

3 全体考察

(1) 教職員による自己評価

【学校経営】【学校運営】

「①学校経営の基本方針等は教職員の共通理解が図られ、全校一丸となって目標達成への取り組みが行われている」「②こどもたちは、明るく学校生活を送っている。」「③報告・連絡・相談が徹底され、情報の共有化と教職員間の連携が図られている。」の値が大きく上がった。「④交通安全教育、防災・防犯教育等、子どもの安全確保に配慮した取組が進められている」は若干下がったが、約96%の値を示している。コロナ禍であったが、昨年度以上に授業参観や学校行事等を工夫して実施することができたことが、一番の要因と考えられる。

【教育課程】

⑤⑥共に90%以上であった。今年度は、学級・学年閉鎖もあったが最小限に抑えられ、授業も通常通り実施し、時数の確保も行われたとからだと考えられる。「特色ある教育課程」については、コロナ禍もあり、検討・改善する部分があると考ええる。

【学習指導】

4項目共に上がった。特に、⑧⑨⑩は90%以上となった。校内研の充実や職業講話の実施等、先生方が実感できる取組が行われたためと考える。また、⑦「基礎・基本的な知識・技能の習得とその活用により、確かな学力の定着を図る学習指導に努めている」は不満足群が約17%いることから、授業だけでなく、家庭学習も含めて今後改善していくべき点だと考える。

【生徒指導】

「⑬生徒が集団生活に必要な決まりやマナー（時間・服装・交通ルール等）を守るよう、適切な指導が行われている。」は、「61%→71%」と上がった。しかし、約3割の先生が不満足群にいる。教職員の入れ替わりが大きく左右していると思う。他校に比べ校則も少なく、生徒の自主性や自己管理に任されている面が多いので、そのように感じてしまっていると考ええる。時間面に対しては、今後も学年生徒会の活動等で向上していくことが望まれる。

【家庭・地域との連携】

「⑮授業参観や学校行事等の学校開放の回数は適切で、開かれた学校づくりが推進されている」は、「46%→87%」と大きく上がった。授業参観の実施や学園祭体育部門の保護者参観、保護者を入れての職業講話等、実施できたことが大きな原因と考えられる。一方で、「⑭学校運営に関してPTA活動は有効に機能し、保護者との連携・協力がスムーズに行われている」は、不満足群が20%を越えた。給食試食会や親子ボランティアの中止、学級懇談会ができない等、保護者と直接交流（会話）ができないことが原因と考える。感染状況を見る中で、保護者との交流を工夫してできるだけ多く取り組んでいきたい。

【学校の特徴】

⑯⑰と大きく数値を上げた。⑯は麗条祭での合唱コンクールの取り組みと実施、⑰は朝、放課後、週休日の日常的な取り組みが値を上げた。しかし、⑱「学級・学年目標の達成に向けた学級・学年づくりの取り組みが進められている。」は、25%の不満足群である。学級や学年の取り組みが他学年に見えなかったり、その結果が分からなかったりしているので、企画会議や職員会議、校務システム掲示板を利用して、情報共有を図っていくことが改善策と考える。

【教育環境整備】

⑲「多忙化改善の取組6項目（会議等の効率化・学校行事の負担軽減・校内組織の見直し・業務の効率化・部活動の負担軽減・地域人材の活用）が、推進されている。」が、大きく下がった。行事の見直しや削減、職員会議や学年会議の運営方法、部活動の取り組み等、少しずつ改善していかないと教職員の負担感が変わっていかないと考える。

今年度も、コロナ禍と教職員の大量入れ替えが大きく影響していると考えられる。学校行事やPTA活動は、新型コロナの感染状況を見ながら工夫して実施してきたことが値を上げる大きな要因となった。来年度も実施に向けて、先生方からの声を生かして行事等を実施することが重要であり、職員の活力となっていくと考える。そのためにも、教職員間の連絡・調整を図り、先生方の意識を一つにしていくことをしっかり行いたい。その一方で、働き方改革が進んでいない現状がある。行事の見直しや削減はもちろん、分掌の引継ぎ、データの一元化、担任業務の軽減等を学年チームとして取り組んでいくことが必要である。また、部活動についても、活動時間や指導体制の検討が必要であると考える。

(2) 生徒アンケート

満足群 (A+B) 90%以上 8項目 (昨年度7項目)

- 1 学校生活は楽しいですか。(91.1%)
- 2 友達と仲良く生活することができましたか。(95.5%)
- 4 先生は親身になって話を聞いたり、丁寧に勉強を教えてくださいましたか。(94.4%)
- 5 学校で学習にしっかり取り組むことができましたか。(90.7%)
- 7 学級・学年の活動(係分担、掃除等)で、自分の役割をしっかりと果たすことができましたか?(96.2%)
- 8 学校の決まりや約束事が守れていますか?(97.2%)
- 9 あいさつをしっかりとしたり、思いやりを持って生活することができましたか?(93.4%)
- 10 部活動や委員会活動に積極的に参加できましたか。(92.1%)

不満足群 (C+D) 25%以上 2項目 (昨年度2項目)

- 6 家庭で学習にしっかり取り組むことができましたか?(25.9%)
- 11 ボランティア活動に積極的に取り組みましたか?(48.3%)

①学校生活全般(1~3)

3項目とも満足群80%以上で、2項目は90%以上となった。さらに、3項目共に昨年度より値が上昇した。このことから、大半の生徒は、学校生活を楽しみ、友達関係に大きな問題を感じてはいないと考えられる。しかし、3において、不満足群が約15%いることは、注意していかなければならない。相談できる人がいない(少ない)と言うことは、悩みや困っていることを自分一人で抱え込み、解決できないままでは大きなストレスになっていく。それは人間不信や不登校に繋がっていくことも考えられる。そうならないためにも、担任はもちろん、学年職員や教科担当教師は注意深く生徒を観察し、教師間での情報交換を密にしていくことが大切である。そして、普段から気軽に会話することで人間関係を深め、少しでも気になることがあれば、短時間でも二者懇談等を実施することで生徒の負担解消に努めていく必要がある。

②学習面(4~6)

教師と生徒の人間関係も良好で、授業も落ち着いた中で行われていることが4・5から感じられる。6家庭学習については、定期テスト前にノーメディアの取り組みを実施しているが、約30%の生徒が不満足群にいる。基礎基本の力の定着を目指した授業作りや、達成感や満足感を実感できる授業の実践をしていくことが大切である。また、家庭学習については毎日の適量の課題設定だけでなく、保護者の協力も大きく左右するので、通信や懇談で話題にして協力をお願いしていきたい。また、定期テスト前に行われる放課後の学習会の実施もできるだけ多くの機会を設定し、生徒の学習支援をしていくことが必要と考えられる。

③生活面(7~9)

3項目とも満足群が90%以上になっている。落ち着いた学校生活で過ごすことができていると考えられる。係活動や学校のきまりについては、ある意味や守る意味について考える機会を学級や学年の取り組み中で設け、生徒が相互に注意し合い、高められるようにしていくことが必要であると考

る。

④部活動他（10～11）

部活動は、朝練習や放課後の活動が日常化し、生徒の満足度はおおむね良いと考えられる。委員会活動も、決まった活動は以外に新たな活動も取り入れ活動したことが生徒の満足度につながったと考える。ボランティア活動は昨年度と大きな差がなかった。校内での活動が中心で、全校を大きく巻き込んだ活動や校外での活動ができていない。委員会通信や校内放送を利用した広報活動、きずなの日を利用した地域清掃など、工夫して活動を実施し意識化を図っていくことが必要だと考える。

⑤家庭生活（12）

満足群は昨年度より若干上昇した。ノーメディアの取り組みの成果の一端が出ている。しかし、20%余りの生徒が不満足群にいる。起床・就寝時間を守る、朝食を食べる、メディアの使用時間等、家庭と連携して取り組んでいく必要がある。特にメディアについては、SNS講演会を各学年で開き、その危険性を考える場を設けているが、保護者への啓もう活動も必要と考えられる。学年通信や学級通信での情報発信、家庭訪問や三者懇談で話題にする等、保護者と一緒に考え取り組んでいきたい。

（3）保護者アンケート

満足群（A+B）90%以上 0項目（昨年度0項目）

80%以上 6項目（昨年度4項目 含90%以上）

- 1 生徒たちは、明るく楽しい学校生活を送っていると思いますか。（86. 3%）
- 2 本校の教師は、熱心に日常の教育活動に取り組んでいると思いますか。（86. 3%）
- 4 思いやる心を育てるなど、道徳性を高める取り組みは、適切に進められていると思いますか。（80. 1%）
- 5 健康づくり・体力づくりへの取り組みは、適切に進められていると思いますか。（83. 8%）
- 6 社会性や自主性を高める取り組みは、適切に進められていると思いますか。（80. 9%）
- 8 交通安全や防犯・防災のための取り組みは、適切であると思いますか？（80. 5%）

不満足群（C+D）25%以上 0項目（昨年度0項目）

20%以上 0項目（昨年度1項目）

分からない群（E）20%以上 4項目

- 10 上条中学校は、「特色ある学校づくり」に取り組んでいると思いますか。（26. 1%）
- 11 上条中学校は、「開かれた学校づくり」に取り組んでいると思いますか。（22. 8%）
- 12 今年度のPTA活動は、内容や組織など適切であると思いますか。（29. 9%）
- 13 いじめなどの問題に対して、未然防止、早期発見、早期対応等に取り組んでいると思いますか。（29. 9%）

①学校生活全般（1）

昨年度より若干下がったが、Aを選択した保護者が増加したことから、生徒や通信を通して学校の様子が伝わっていると考えられる。しかし、不満足群や分からない群の値が上昇しているため、保護者への情報発信に努め、学校理解を進めていきたい。

②学習面（2・3）

2・3共に上昇した。しかし、3については満足群以外が20%以上いるので、授業の工夫や基礎学力を向上させる取り組み、家庭学習の充実等、学校と保護者が連携・協力して取り組んでいく必要性を感じる。

③道徳・体力づくり・社会性等（4～6）

どちらも80%以上の満足群であるため、良好であると考えられる。しかし、E（分からない）が10%以上いることは、改善する余地がある。学級、学年通信や学校たより等を利用して、活動の内容や生徒の感想を保護者に発信していきたい。

④生徒指導・安全・施設（7～9、13）

⑦⑧⑨は70%以上の満足群であった。しかし、Eが10%以上いることは、注意していかねばならない。各講話集会の実施の様子や生徒の感想、PTAあいさつ運動の様子等、保護者に伝えられる内容については、通信やホームページ上で発信する工夫を考えていきたい。

⑬は個人情報が含まれてくるので、事案を生徒や保護者に発信することは難しい。しかし、講話集会、道徳・学活での取り組み内容や生徒感想等は発信することができるので、学級・学年通信を通して情報発信し、保護者の認知を高めていきたい。

⑤特色・開かれた学校（10・11）

2項目とも昨年度を若干上回った。授業参観の実施や麗条祭の参観等、保護者が学校に来られる機会を増やしたことが原因と考える。しかし、E（分からない）が20%以上、特に「10 特色ある学校づくり」は25%以上と、大きな課題である。コロナ禍で活動が制限されているが、感染症対策を取りながら保護者を巻き込んだ行事、地域へ活動の場を求める取り組み等を実施していく必要があると考える。

⑥PTA活動（12）

昨年度より数値が上がった。コロナ過のため大きな取り組みができなかったが、麗条祭の受付やPTA新聞の発行等、今年度実施できた活動が影響していると考えられる。しかし、Eが20%以上いることは検討する必要性を感じる。感染状況を見ながら、活動の規模を小さくして実施する、通信やHP上で発信する等、取り組んでいきたい。

⑦全体を通して

E（分からない）が10%以上の項目は、昨年度より2項目減り10項目あった。授業参観を2回実施、学園祭体育部門の参観ができたことが影響をしていると考えられる。しかし、20%以上の項目が4項目（昨年と同数）あることは、学校の取り組みや活動を知る情報がまだ十分に保護者に伝わっていないと考えられる。そのことは、学校理解や保護者の協力が得られない原因となっていくと考えられるので、感染症対策を行った上で、今年以上に生徒の姿や活動を直接見てもらう機会を設定し、保護者の理解を求めていきたい。

（4）学校関係者評価（学校運営協議会設置推進委員会委員の意見を集約）

①令和5年2月24日（金）第2回学校運営協議会設置推進委員会を開き、委員の方々から学校評価について御意見をいただいた。

○先生方は、仕事も多く、生徒や保護者の対応も丁寧に行われている。アンケート結果を見ただけで、その様子が伝わってきます。今後も体調に気をつけながら、仕事に励んで行って欲しい。保護者の意見も大切だが、小さな事には気にせず、生徒のために頑張っていて欲しい。

○生徒の対応や指導は、細やかになりすぎて過保護になってしまってはダメだと感じる。程よい距離や手立てで生徒の成長を支えて行って欲しい。

○周囲の目ばかりを気にする生徒になって欲しくない。しっかりと自分の考えを持って考えて行動する生徒を育成して欲しい。

○学校通信「あらざ」は、校長先生の細やかな声が載っており、読むことで保護者が育っていると感じる。読んでいる保護者は、自分の子どもに適切に対応していると感じる。日常生活の中で忘れてしまっていることも記載されていて、自治会や他の会議の中でも話題にしている。駐在さんの話も記載されていて、地域や見守り隊ですれ違う児童にも同じ話をする事ができている。

○挨拶が年々生徒からも返ってくる量や回数が多くなった。生徒が落ち着いて学校生活を送っていることが伝わってくる。

○昨年感じたが、下駄箱の靴がしっかりそろえられていて、廊下や教室の掲示物も破れている物がなく、しっかり貼られていた。生徒がしっかり過ごしていることが感じられた。

○学校給食の残食が多いと聞いたので、しっかり食育に取り組んで行って欲しい。今の食事が将来の自分の健康と身体を作っていく。その大切さを先生方から生徒に伝えて欲しい。

○給食の残量は簡単に少なくならない。家庭での食生活や指導が大きく影響している。考えたり意識したりする場を設ける中で、少しずつ変容していくことを求めている。

②質問が3点あった。学校側では次のように答弁した。

ア. 教室に「給食を残さないで食べよう」とポスターがあった。給食の残量は多いのか？

→残量は多いと感じる。理由として幾つか考えられる。飲食時間が15分しかないので、1年生は大変である。女子に多いが、周りの目を気にして食が進まない生徒もいる。コロナ禍もあり、パン等を仲間と分けて食べられない。好き嫌いが多い。

イ. 今後のマスクの着用はどう指導するのか？

→市教委の指示に従って、取り組んでいく。基本は個人判断になり、強制指導はしない。

ウ. 週休日の部活動の地域移行はどのように進んでいるのか？

→案として、市内を4ブロックに分けて、それぞれに部活動を設置し、取り組んでいく。現状まだまだ進んでいない。教職員が指導するならば、兼業兼職の届け出を出して、取り組んでいく形になる。令和5年度は今年度と同じ、令和6年度以降は未定である。

設置推進委員会でいただいた御意見を参考に、来年度の教育活動に生かしていきたいと考える。